

## 令和4年度 学校関係者評価結果

2023. 4. 3

1. 評価日：令和4年3月3日（金）15：30～17：00
2. 評価者：6名
  - 1) 関連業界関係者：社会福祉法人善通寺福祉会特別養護老人ホーム仙遊荘 施設長
  - 2) 高等学校関係者：香川県立善通寺第一高等学校 校長
  - 3) 地域住民：クラブ講師
  - 4) 卒業生：NHO 四国こどもとおとなの医療センター 副看護師長
  - 5) 教育関連有識者：四国学院大学 教授
  - 6) 看護管理者：香川県立丸亀病院 看護部長
3. 学校出席者
  - 1) 副学校長
  - 2) 教育主事2名
  - 3) 事務主任
4. 評価対象：令和4年度 学校運営方針の取り組み実施状況
5. 評価基準：4段階評価及び総評
 

[4:達成できている 3:ほぼ達成できている 2:やや達成できていない 1:達成できていない]
6. 評価結果

運営方針1. 質の高い教育実践と効果的カリキュラム運用を図る	自己評価	他者評価
	<b>2.8</b>	<b>3</b>
1) 研究授業（12回/年）、研究（3題/年）の実施と教育実践への活用	3	3.2
2) 看護技術教育の強化	3	3.3
3) 学生の達成感が高まるような実習教育の強化	3	3.3
4) カリキュラム委員会と実習委員会の運営による教育内容と教育方法の検討・改善	3	3
5) 看護教員能力開発プログラム（TNAD）の継続的活用	2	2.3
<div style="display: flex;"> <div style="writing-mode: vertical-rl; transform: rotate(180deg); padding-right: 5px;">総評</div> <div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・計画的な指導や効果的関わりとなるよう創意工夫、意見交換しながら取り組まれている。順序尺度では示しきれないと思うが、昨年度と比較し教員が行っている又は行ってきた努力を高く評価したい。</li> <li>・研究、研究授業を実施し、教授する者が同時に研究者であろうとすることは活発だと評価できる。</li> <li>・コロナ禍で難しい中、看護技術教育を工夫している。看護技術の習得が大切であるため、更に技術教育の強化や実習機会の確保に努めて欲しい。技術演習の補助体制は、授業者と補助教員の演習指導により、学生はどちらにも技術確認ができ、主体的に学ぶ機会が増え、モチベーションアップにもつながる。教授上の協働スキルとして、授業前に教員間でデモンストレーションを行っていることも良い。</li> <li>・感染防止に努めながらの教育活動遂行に苦慮されたと推察するが、臨地実習は教員と指導者の指導方法の共有と実践により、学生の達成感につながっている。臨地実習の制限がある中、臨地では患者や看護師を見て多くのことを学んでもらいたい。事前の準備として情報収集への介入はとても良い。臨床に出た時のリアリテショクを減らすためにも今後も協力していきたい。</li> <li>・ルーブリックの評価基準は、学習能力とパフォーマンス能力のいずれにも優れた学生が良い評価なのか。現状の学生を見ていると、それ以前の間人能力、学校の教育理念に掲げているように人を育てる教育が求められている。学生は自己評価することで行動に移す前に何故そうするのか、内省の習慣ができ、メタ認知力を高める機会になると考える。ルーブリック導入による演習や臨地実習に期待したい。</li> <li>・TNAD活用については共通化が課題であるが、評価基準の見直し後、ラダーに応じた教員へのフィードバック、能力開発に活かしていくことができればより効果的であると思われる。</li> </ul> <p><b>【課題】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・オンライン授業による知識の定着に課題があり、国家試験の支援方法は従来のやり方では難しく、学生の学習状況に応じた支援計画を検討する必要がある。</li> <li>・多忙で時間確保は大変だが、研究授業や研修の情報を共有し、得られたデータを今後の学校教育や研究に活かして欲しい。</li> </ul> </div> </div>		

運営方針 2. 教職員の団結と連携を深め、円滑で安定した学校経営・運営を図る		自己評価	他者評価
		3	3.2
1) 教職員間でのアサーティブコミュニケーション、時期を逸さない報告・連絡・相談の徹底		3	3
2) 効果的で効率的な諸会議及びミーティングの運営と適時・適切な学校運営への反映		3	3.5
3) 業務効率化のための5S活動の推進		3.3	3.7
4) 経費削減による学校経営の改善		3	3.3
5) 防火訓練・防火教育体制作り		2.6	2.6
総評	<p>・教員同士のコミュニケーション力が問われるが、ミーティングを頻回に持ち工夫している。コミュニケーションはアサーティブであることも大事だが、同時に多様性（個性等）が意識されて欲しい。</p> <p>・不必要な会議時間を減らし、より効果的で効率的な会議の工夫がされている。会議等の簡略化は、働き方改革の1つと考えられるが、一方で重要な情報の共有は求められるため、短時間でもミーティングの機会を作っていることは評価できる。可視化と適時の報告体制による情報共有や、教職員間で時期を逸さない報告・連絡・相談を徹底するために尽力されている。</p> <p>・業務効率化は5S活動による業務効率の向上や理解の促進に期待したい。パソコン内共有フォルダの整理等、情報データの整理への取り組みは評価できる。今後も整理を進めて欲しい。</p> <p>・活用できるマニュアル作り、経費削減に向けた積極的な取り組みに苦勞されている様子が伝わる。印刷方法の工夫により経費削減に尽力されている成果や、電気使用状況のデータを提示することでの節電効果が出ている。物価や燃料費高騰の報道もあり、継続してデータを提示することで学生もより一層節電に心掛けるのではないかな。</p> <p>・防災訓練・教育については、コロナの影響で仕方ないかもしれないが、防火設備の把握や消火栓・消火器の使い方の習慣は、看護師になってからも対象の生命を守るために必要である。自然災害も含めて感染拡大も災害の1つであり、どのように対応するかは頭の中でのシミュレーションでは動けない。実際の訓練を繰り返し習得できることであり、次年度は学生が目的意識を持ち取り組めるように、学生を含めた防火訓練の実現を望む。</p> <p><b>【課題】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・会議時間が決められている中で、時間オーバーする要因分析やタイムリーな情報共有、伝達事項の共通理解について今後もより良くなるような方法を検討してもらいたい。</li> <li>・学生を含めた防火訓練の実施。</li> </ul>		
運営方針 3. 地域とつながり、地域社会に貢献できる学校運営を図る		自己評価	他者評価
		3.1	3.6
1) ICTを活用した地域への学校PR、募集活動による学生確保		3	3.7
2) ホームページの即時更新、魅力ある情報発信の工夫		3	3.5
3) 国立病院機構および地域の看護師確保		3	3.2
4) 教員各自の専門性を活かした国立病院機構及び地域社会への貢献		3.3	3.9
5) 授業や教科外活動と連動した地域交流の推進		3.3	3.7
総評	<p>・座談会や学校訪問の実績、コロナ禍における学生自治会、教科外活動や地域交流等、でき得る範囲での取り組みがされている。ICTを活用し、保護者対象のオンライン相談の導入等、学校PR活動を工夫し、開催回数も増やして学生確保に積極的に取り組んでいる。</p> <p>・HPは担当者を決めて即時更新が行われ、昨年度よりも改善されている。興味が持てるレイアウトで学校の様子が見やすい。電子テキスト導入をHP等に掲載するのもよいのではないかな。</p> <p>・授業やボランティア活動等で地域と関わりを持つことは、地域の生活習慣や同じ年齢群でも多様な人々がいることを知る機会にもなり、個々に対する理解を深めることにつながっている。</p> <p>・地域に目を向ける教育は、在宅の暮らしの中での看護師の役割も多いことを知り、学生自身の視点の転換、視野を広げ、学生が社会に出た時「求められる看護師とは」を考える機会になっている。地域とのつながりについては、看護学校という特異性からみても健闘していると評価できる。</p> <p>・応募者、入学者は運営上気になるが、結果論でもある。2023年度については地方にある大学も状況が</p>		

同様である。母院への就職率、機構への就職率は目標値近く、香川県内就職率は目標達成でき、学校の取り組みや臨地実習での関わりが成果として現れていると推察する。

**【課題】**

- ・HP 掲載計画や期限をより具体的に決める。
- ・専門実践教育訓練給付金制度の認定を今年度のPRに活かす。
- ・学生確保と在学生の伝える力を養うためにも、在学生代表に訪問校で看護師の道を選び、その夢に向かって日々奮闘している様子を伝える機会を与えるのはどうか。

<b>運営方針4. 学生の倫理観と主体性、自律性を育む</b>	自己評価	他者評価
	<b>2.9</b>	<b>2.9</b>

1) 学生の自発的な気持ちのいい挨拶と美化活動の推進	2.6	2.6
2) 看護学生としての自覚を持った健康管理・情報管理行動の指導	3	3
3) 学生の主体性を尊重した学生自治会活動、ボランティア活動、教科外活動の支援	3	3

総 評	<p>・倫理については、世代の特性はあろうかと思う。子供の頃からIT環境が整い、SNSでの自己表現に慣れている世代であり、直接言葉を交わす挨拶も少なくなっているのかもしれない。この世代の若者たちはどちらかというと挨拶が苦手なのだと思うが、病気による入院患者の方への看護や対応が中心となる仕事であり、挨拶は将来の勤務を想定しても大切な行動である。笑顔や明るい挨拶は相手に元気を与えることができるので、教員自ら心を開いて挨拶の模範と根気強い声掛けをお願いしたい。また、自発的な挨拶の推進について、学生と一緒に考えてもよいのではないか。</p> <p>・病院で会う学生は基本的に自ら挨拶をしている印象があり、教育の賜物であると感じている。</p> <p>・会話以前に挨拶が自発的にできない学生がいるのは残念に思う。実習に来る学生の中には、声が小さく、しっかりとした考えがあるのに伝え方が下手で損をしていると感じる。マスク着用で表情が読み取れない状況の中で、言葉以外の相手からのシグナルをキャッチしづらく、意図が読みとれないことが多いと思う。自身の想像で判断することによる自己中心になりがちなコミュニケーションの難しさを感じる。</p> <p>・美化活動はオンライン授業が増えたことで、学校に来る回数が減少し、美化活動に対する意識が低いのではないか。また、美化活動の必要性を学生と一緒に考えてもよいのではないか。学生が当事者意識を持って取り組む必要があり、段階的なステップを踏み、習慣化できるまで美化委員会を中心にチェックリストで求める基準を明確化してチェック体制をとる等、長期的に展開する必要がある。</p> <p>・健康管理行動は、学生便覧に感染予防対策や学校感染症による出席防止等が詳しく記載されており、書面確認ができ安心につながる。感染対策では「どうすれば大切な人を感染から守れるか」を考え、行動することを常に自らが考え行動して欲しい。</p> <p>・共同生活の中でクラスターが発生していないのは、支援ありではあるが、健康管理が行えているからである。学生が自ら行えるよう個別性に応じた介入を今後も継続して欲しい。</p> <p>・インシデント報告にあるように、守秘義務・秘密保持義務に関する内容についてはきちんと対応できている。個人情報等の管理は強く求められているため、今後も情報管理意識の向上に努めて欲しい。</p> <p>・長期に及ぶコロナ禍の影響で活動が制限された中でも、状況に応じた自治会活動を工夫して実施できている。学生に対するアプローチとして主体性を引き出す工夫をしながら取り組みがなされている。十分に行えなかった2年間のブランクがあり、学生が主体的に取り組めるようになるまで時間はかかると思うが、時間の確保と早期介入が必要である。</p> <p><b>【課題】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・年度初めに計画を立て、活動に取り組める時間確保と早期介入により主体的な活動となることを期待したい。</li> </ul>
--------	---